

中学部「作業学習（石けん班）」学習指導案

日 時	平成 28 年 10 月 7 日（金） 3・4 校時（10：25～12：05）
場 所	中学部 石けん室
対 象	中学部 1～3 年（5 名）
指導者	星野英樹（T1） 齋藤貴子（T2）

I 単元名 作業Ⅴ「大学祭で販売しよう」

II 授業づくりの視点

1 単元の設定【イメージを持ちやすいゴール設定に】

年 7 回（校内販売会 2 回、校外での販売会 5 回）計画している販売会のうち 4 回目にあたる販売会に向けて取り組む単元である。（※販売会と形態は異なるが、セールスプロモーションによる受注販売も年 2 回計画している。）

石けん班は 5 名の生徒で構成されており、（5 名とも 4 月からの所属）いくつかある石けんの製造工程を分担して取り組んでいる。複数の作業工程に一人で取り組む生徒、一つの工程に取り組み続けてきたことで一人で作業できるようになってきている生徒、支援を受けながら取り組むことで作業学習そのものへの慣れが見られてきている生徒と、さまざまである。

これまでの作業学習における各単元はオリエンテーション→ちらし配り→製品作り→販売会→振り返り→ごくろうさん会といった流れを繰り返してきた。このことにより生徒は、見通しをもち作業学習に臨むようになってきている。また、ちらし配りや販売会といった実体験の繰り返しは、生徒それぞれの見通しの形成に不可欠となっている。実施前には緊張や不安を抱く生徒もいるが、実際に製品が売れたりねぎらいの言葉をかけてもらうことで喜びや自信に繋がり、作業へ臨む意欲が高められてきている生徒もいる。

2 単元の計画【馴染みのあるこれまでの流れを基本として】

これまで繰り返してきた単元の流れと同様にする。石けん班に所属する生徒は、言葉による説明に加え、写真やイラストといった視覚的に捉えることができる掲示物や実体験によって学習を深めてゆく生徒が多い。確かな見通しを単元始まりの段階で形成することが、その後の作業意欲の引き出しに大きく関係してくる。そのため学部全体で行うオリエンテーションに加え、石けん班のオリエンテーションでも、実施してきた販売会やごくろうさん会の写真を用いながら見通しを形成していく。また、これらを作業室内に掲示し、適宜取り上げ、個々の見通し形成をより確

かなものにし、作業に取り組む主体性が引き出されるようにする。

3 活動内容【同じ流れで繰り返し取り組む】

初日のオリエンテーション、大学構内での宣伝活動（ちらし配り）、販売日前日の準備や販売練習以外は毎日、同じ流れで活動を繰り返す。

午前の作業1では素作り、攪拌、容器詰め、補充、ラベル貼り、ご飯砕きといった各作業に分担して取り組む。作業2や午後の作業は全員で攪拌作業に取り組む。

今単元は午前午後の1日作業単元であり、1年生にとっては初めての体験となる。2・3年生においては昨年の経験があるとは言え、これまでの作業学習では時間後半になるにつれ、疲れた表情を見せたり集中が途切れ作業を進める手が途切れがちになる生徒もいた。給食、昼休みといった時間を過ごした後の午後作業は特にも一人一人の様子観察をつぶさに行い、励ましや賞賛など個々の様子に応じた声を掛けながら進める。

4 学習内容への支援【一人一人のレベル向上が図られるように】

前単元までの作業する生徒の様子はそれぞれであった。教師がすぐ側で声を掛け一緒に手を添えることで作業に取り組むようになってきた生徒や、担当作業種に慣れ、取り組む時間が延びたり、取り組み量が目に見えて増えてきた生徒もいた。その一方で、生徒がもっている力や意欲を引き出すための手立てや支援具が不十分であったことから取り組む意欲がもてず、立ち歩いたり眠ってしまう生徒もいた。

そこで今単元では、場の配置や作業種の変更も含めた支援具などの見直しを図り個々のさらなる作業力や取り組みの意欲を引き出すようにしたい。

5 協動的活動への支援【一体感をもち、全員で目的に向かえるように】

一人一人が役割を担うことで製品が完成していくことを理解（または、感じる）できるように、教師も含めた全員が、互いの視界に自然的に入り込みやすい配置とする。また、友達の頑張る姿を自分の励みとできるように個々の頑張りを伝え、販売会やごくろうさん会の話題を適宜取り上げるなどして全員で共通した目的に向かい、それぞれが主体的に取り組もうとする雰囲気を作りながら進める。

Ⅲ 単元の目標【単元で目指す主体的な姿】

- 1 大学祭での販売を目指し、みんなで協力して製品作りに取り組む。
- 2 今の力を発揮し、自分の役割に進んで取り組む。

Ⅳ 単元計画（総時数 30時間、9日間）

	主な活動内容	月 日	時数
第1次	オリエンテーション (学部全体、石けん班) 岩手大学でのちらし配り	10月 3日 (月)	3時間
第2次	製品作り	10月 4日 (火) ～ 10月14日 (金)	20時間 (本時7、8/20)
	販売準備	10月14日 (金)	1時間
第3次	作業製品販売会	10月15日 (土)	4時間
第4次	振り返り ※作業レク単元へ続く	10月18日 (火)	2時間

Ⅴ 本時の授業

1 本時の授業について

本時は製品作りに入った3日目である。5名中4名はこれまでと同様の工程を担当するが、用具や支援具を変更したばかりである。用具や支援具の使い方、手順について作業に取り組む様子を見ながら繰り返し丁寧に確認する。作業内容を変更した生徒についても、戸惑う様子があるときは、手を添え一緒に作業を進める。また、販売会やごくろうさん会を楽しみとし、作業へ取り組む励みとできる生徒もいるので、適宜話題に取り上げることから主体的に取り組もうとする姿を引き出したい。

2 本時の目標【本時で目指す主体的な姿】

- (1) みんなで協力し、製品作りに取り組む。
- (2) 今の力を発揮しながら自分の役割に取り組む。

3 本時の展開

★印=今単元から始める新しい支援

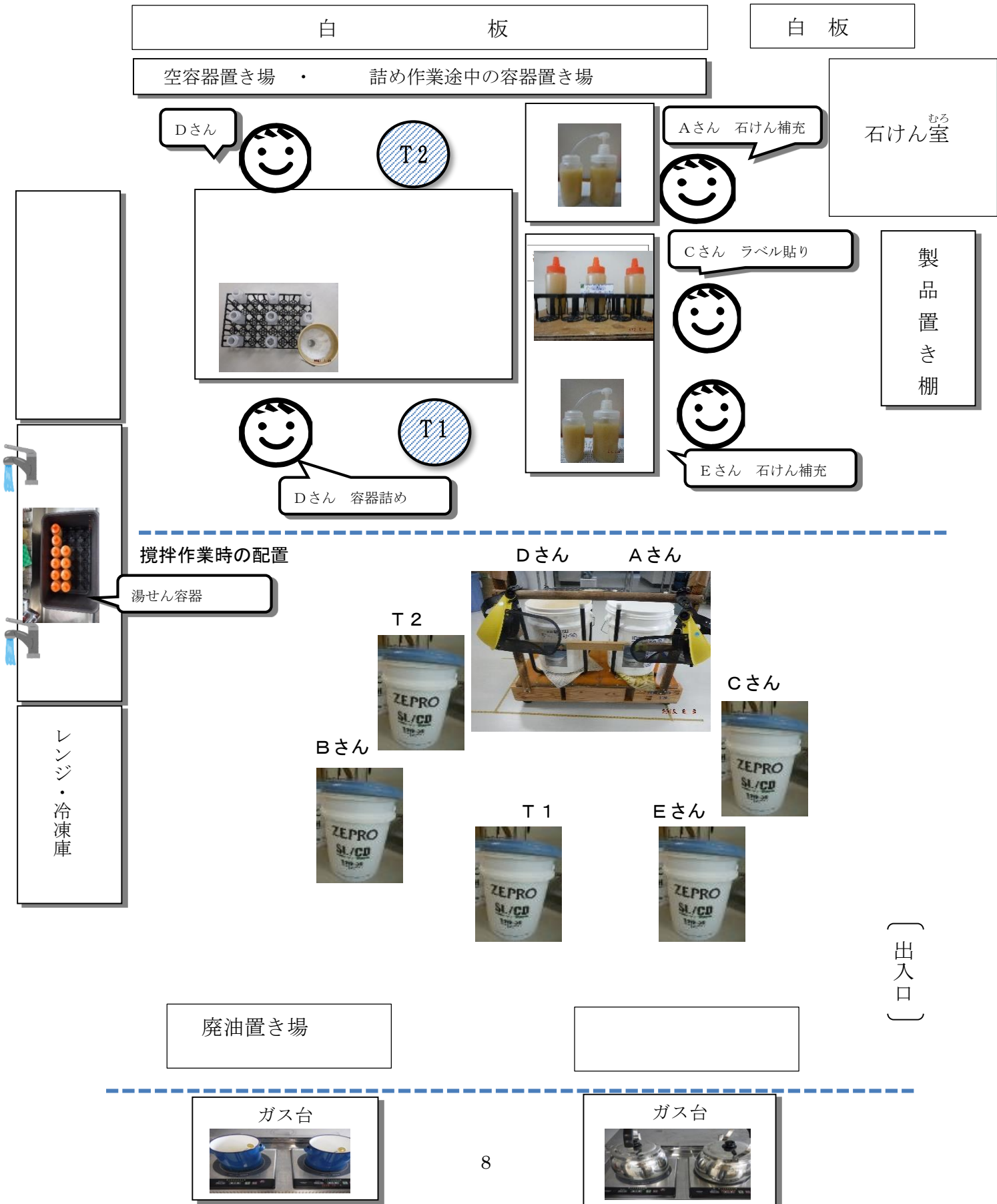
学習内容(時間)	学習活動	支援上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・身支度準備 ・担当作業の確認 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんばりカード」で本時の作業内容を確認する。 ・身支度を整える。(ゴム手袋、帽子またはタオル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさん、Bさん、Dさんには用紙の写真や目の前の用具を指さしして確認する。 ・作業に取り組む時間を十分に確保できるようにゴム手袋はめに苦戦する場合は支援する。 ・全員が揃うまでの時間待ちが意欲や集中力の低下にならないように準備が整った生徒から作業を開始する。
1 作業1 (4 5分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> それぞれが担当する作業に取り組む。 </div> <p>〈石けん補充〉</p> <p>Aさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンプボトルを使用し、補充する。 <p>Eさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補充カゴから容器を準備して取り組む。 ・ポンプボトルを使用し、補充する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★補充する量の目安が理解できるように目印を取り付けたチューブ管を使用する。 ・容器2本を1セットにする。 ・声掛けを求めるような訴えをするときにはポンプを押す動作をしながら「おして」と声を掛ける。 ・ゴム手袋が汚れたときには交換を促す。 ★補充作業のポイントを示した写真を手元に提示する。 ・チューブ管を使用し、補充する石けんの位置や量の微調整ができるようにする。 ・必要に応じてポイントに示してあることを動作で確認する。 ・取り組みの意欲が持続するように適宜、賞賛の声を掛ける。 ・取り組んだ数が分かるようにボードを使う。

	<p>〈冷凍ご飯砕き〉</p> <p>Bさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍ご飯をすり棒でたたき粗粒状に砕く。 ・砕いたご飯をミキサーにかか。 <p>〈石けん詰め〉</p> <p>Dさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漏斗、すり棒を使って石けんを容器に入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・石けんを詰めた容器の蓋をして湯せん用器に入れる。 <p>〈ラベル貼り〉</p> <p>Cさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品名を記載しているラベルを容器中央に貼る。 	<p>★新しく取り入れた作業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砕いたご飯が飛び散らないようにジップロックの袋を準備する。 ・ミキサーをかける時間が分かるようにタイマーを使用する。 ・ミキサーからのご飯取り出しは教師が行う。 <p>★作業に取り組む励みとできるようにラジオを携帯し、イヤホンで聴きながら取り組む。</p> <p>★取り組む本数が一目で分かるように12本を1セットにする。</p> <p>★漏斗と三脚を装着した漏斗セットを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漏斗セットの移動がスムーズにいかないときは、指さしをしたり、手を添えて一緒に行う。 ・漏斗セットの移動時に容器を汚さないように、漏斗の下口に弁の役割を果たす布を付ける。 <p>★石けんを詰めた容器を1本ずつ整理して湯せん容器に置けるように仕切りを置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石けん容器が浮き上がらないように1本ずつをきちんと差し込むように声を掛ける。 <p>★ラベルをまっすぐ貼るときの目安となり、作業効率も上がるように4本セットでできる容器入れを準備する。</p> <p>★次の容器を補充する4ヶ所が分かるように目印を貼る。</p>
--	---	--

<p>2 作業2 (35分)</p>	<p>〈攪拌〉 全員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱湯1リットルを攪拌用バケツ入れ、決まった場所にバケツを移動し、約30分間攪拌する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★攪拌作業の準備や片づけを安全に行うようにAさんとDさんの攪拌バケツをセットで運べる台車を準備する。 ・熱湯を入れる際の危険にすぐ対応できるように教師の前で行う。 (Cさん、Dさん、Eさん) ・攪拌場所への台車移動はDさんが行い、台車のストッパーは教師がかける。 ★フェイスガードを使用し、顔を保護する。 ・互いの様子を見合える配置とする。万が一、危険なことや危険に繋がりそうな行動があったときは、攪拌作業を中断し、安全確保を優先する。 ・作業時間を感覚的に捉えたり、作業意欲が持続されるようにBGMを使用する。 ・作業1の進捗や販売会、ご苦労さん会(作業レク)の話題を取り上げ意欲が引き出されるようにする。 ・一体感をもって午前の作業を終えられるように最終曲の後に全員で10カウントを数える。
<p>3 片付け 振り返り (10分)</p>	<p>〈床拭き〉</p> <p>Aさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑巾で床の汚れを拭く。 <p>〈バケツの片づけ〉</p> <p>Bさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攪拌したバケツを片づける。 <p>〈ゴミ捨て〉</p> <p>Dさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館前のゴミ捨て場に行く。 <p>〈攪拌棒の片づけ〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が横で動作を示す。 ・片づける場所を声掛けする。

<p>5 まとめ</p>	<p>〈がんばりカード記入〉 Cさん、Eさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員の攪拌棒を洗う。 ・午前の担当作業成果を記入する。 <p>〈完成数の確認〉 Eさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補充が完了した本数を確認し、完成数合計と目標到達までの数を計算し、白板に記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の作業成果と午後の作業内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成数を発表し、石けん丸（石けん班キャラクター）を白板に貼り製造目標数へ近づいたことを知らせる。 ・午後の作業意欲が引き出されるようにご苦労さん会（作業レク）について触れる。
--------------	--	---

3 配置図



VI 個人の目標及び支援

氏名等	現在の活動の様子	本時について	
		本時の目標	本時の支援（教材教具、場の設定、教師の働きかけ、その他）
Aさん（1年男）	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習に慣れ、離席が減り作業する時間が延びた。 ポンプを一押し、二押しするごとに教師に関わりを求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ポンプをできるだけ連続で押す。 	<ul style="list-style-type: none"> 関わりを求めるような様子があるときはポンプを押す動作を示し「押して」と声を掛ける。 チューブ管の目印を指さして「ここまで入れて」と声を掛ける。目印まで入れた頃合いで賞賛を繰り返す。
Bさん（2年男）	<ul style="list-style-type: none"> リズムを取り、声を出しながらご飯を砕く。 ラジオを携帯し、聞くことで眠ろうとせず作業へ取り組んでいる。 声掛けや掲示物などから単元のまとめに楽しみなご苦労さん会があることをおおよそ理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ご飯を砕いたりミキサーの操作に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 眠ろうとせず作業しようとする意欲がもてるようにラジオをイヤホンで聴きながら取り組む。 ミキサーを操作する時間が分かるようにタイマーを使う。 ミキサーからのご飯の取り出しは教師が行う。 必要に応じてご苦労さん会の掲示物について触れ、意欲が引き出されるようにする。
Cさん（2年女）	<ul style="list-style-type: none"> とてもゆっくりだが担当する作業に熱心に取り組む。 自分を励ますような独り言を言いながら作業することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい支援具に慣れながら真っすぐにラベルを貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ラベルをまっすぐ貼るときの目安となり、作業効率も上がるように4本セットできる容器入れを準備する。 次の容器を補充をする4ヶ所が分かるように目印を貼る。
Dさん（3年男）	<ul style="list-style-type: none"> 声掛けを必要とする場面もあるが容器に漏斗セットを移動する。 単元のまとめに楽しみとしているご苦労さん会があることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から漏斗セットを移動して石けんを容器に詰める。 	<ul style="list-style-type: none"> 漏斗と三脚を装着した漏斗セットを使用する。漏斗セットの移動がスムーズにいかないときは手を添えて一緒に行く。 必要に応じてご苦労さん会の掲示物について触れ、意欲が引き出されるようにする。

Eさん（3年女）	<ul style="list-style-type: none"> ・作業力があり、どの作業工程にも一人で取り組む。 ・取り組み意欲がもてないときにその理由を自分から伝えたり、教師に尋ねられたときに答えることができる。 ・補充名人へ繋がるポイントを理解し、左手で容器を回しながら補充する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左手で容器を回転させ、容器を汚さないように補充する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてポイントに示してあることを動作や言葉で確認する。 ・取り組み意欲が持続するように適宜、賞賛する。 ・気持ちや体調の訴えがあったときは話を聞き、気持ちを受け止める。また、作業の継続を自己決定できるようにいくつかの選択肢を提案する 9
----------	--	---	--